



写真上 5、6年生の真剣勝負「横綱引き」。チームワークや駆け引きなど、いろいろな要素が求められる種目です
写真下 シンプルですが盛り上がる徒競走。みんな1等賞を目指して頑張ります

カメリーナに児童の声響く

東日本大震災で校舎の一部に被害を受け、開催が延期されていた長瀬小学校の運動会は7月18日、カメリーナで開かれました。

「出会い 絆 そして未来へ」をスローガンに、児童ら134人が26種目に挑み、「きょうのヒーローは きみだ!」、ダンス「マル・マル・モリ・モリ!」、5・6年生による借り物競走「ミッション・インポッシブル」や「紅白対抗リレー」などで熱戦を繰り広げました。また、親子競技や児童と保護者らによる地区対抗リレーなども実施され、児童や観客席からは大きな声援が送られました。

双葉町から本町に避難し、長瀬小学校に転校した児童もたくさんいます。児童の一人は「運動会とかいろいろなことは、もうできないかもしれないと思っていた。でも今日は運動会ができて楽しい」と感想を述べました。



写真上 「みぎー」「ひだりー」友だちの声援でやっとスイカの前にたどり着き、力を込めて振りおろす
写真下 スイカ割りが終わりと待ちかねの時間。冷えたスイカは何個でも食べられそう

園児らがスイカ割りに挑戦

川桁保育所のスイカ割りは7月26日、同保育所で催され、園児たちが自分の体ほどもある大きなスイカに挑みました。

先生からスイカ割りの説明を受けた園児たちは、友だちには大きな声で「まっすぐー」「みぎー」と声援を送り、自分の順番がくると、目隠しをして3秒ほど先にあるスイカを目指しました。

スタスタと前に進みさっと棒を振り下ろしてしまう子、一歩一歩ゆっくりと慎重に進んでいく子やなんと目隠しをずらしてのぞこうとする子など、それぞれが個性を發揮しながらスイカ割りを楽しんでいました。

スイカ割りが終わり、切り分けられたスイカが登場すると、園児たちは「おいしい」「冷たい」と話しながら、太陽よりもまぶしい笑顔でスイカにかぶりつきました。

スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO

野球部員がプロの技術学ぶ

四国アイランドリーグ plus で活躍する高知ファイティングドッグスの野球教室は7月26日、町運動公園球場で開催されました。

この教室は中学、高校時代を県内で過ごした同球団の山本大輔マネージャーと日大東北高校野球部出身の同級生らが中心となり、東日本大震災の復興支援に取り組む同球団とともに開催を決めたもので、県内ではいわき市と本町で実施されました。

当日は監督や選手ら25人が来町し、猪苗代、東吾妻の町内3中学校と磐梯中、湖南中の野球部員ら合計69人に打撃や守備などの技術を指導しました。

山本マネージャーは「猪苗代で避難生活を送り、野球ができない子どももいると聞いた。夢をあきらめず、一緒に頑張る気持ちを伝えたい。球団の活動を通じて、高知と福島との交流を深めるとともに、継続的な支援を続けていく」と話しました。



写真上 真剣な表情で指導を受ける5校の生徒ら
写真下 指導を受ける東中1年の渡部匠舞さん。「足の動きや体重の乗せ方を習い、参考になった。打球も飛ぶようになりました」と話しました。



写真上 志田浜の清掃をする生徒ら。志田浜に来るまでの道路でも大量のごみを拾ったという
写真下 天神浜の清掃を担当した渡辺麻美さん(左)と小野田莉奈さん(右)

古里の宝、猪苗代湖を守れ

東中学校の1年生32人は7月12日、志田浜と天神浜で湖畔の清掃活動に取り組みました。この活動は、奉仕作業を通して周りの人や周辺環境について考える機会を作る総合学習の一環として実施されたものです。生徒たちは、ボランティア活動の意義や猪苗代湖の実態などについて事前学習し、理解を深めて当日を迎えました。

当日は志田浜18人と天神浜14人の2グループに分かれて清掃を開始。志田浜を清掃するグループの班長を務めた渡部萌絵さんは「たばこの吸殻、花火や空き缶などがたくさんあってびっくりした。砂の中に隠してあるものもあり、隠してでも捨てようというその気持ちが悲しかった。私たちの古里をゴミで汚さないでほしい。猪苗代湖がきれいになって、また観光客がたくさん来てくれるようになればうれしい」と感想を述べました。